

さつている。

5. 食 材 料 費

ここでいう食材料費とは摂取した全食品量について購入、自家生産、貰物等の別を問わずすべて市場価格に換算し1人1日当りの平均を示したものである。

さて全国年平均1人1日当り食費は96.08円（うち動物性食品入手に要した費用24.32円）、市部106.12円（30.76円）、郡部85.66円（17.64円）となっており、市部は郡部より総額において23.9%、動物性食品については74.4%多く要している。

また市部、郡部を通じて食材料費は2月に多く要し8月に少ない傾向がある。業態別にみると事務的従事者世帯が最も多く105.48円を要しているが、労働的、田作、その他、田畑作、畑作、林業、漁業者世帯の順に少なくなり特殊農業世帯の62.07円が最低である。そのうち動物性食品入手に要した費用も事務的従事者世帯が高く31.36円、最低は畑作世帯10.29円で次いで林業従事者世帯11.40円、特殊農業世帯14.13円である。

Ⅳ 総 括

昭和31年度の国民栄養調査成績を概括すれば次のとおりである。

1. 栄養摂取量 熱量、蛋白質等量的には停滞しているが動物性蛋白質、脂肪、カルシウム及びビタミンA・B₂等若干の増加がみられる。しかしビタミンB₁は郡部では白米食増加のためかなり減量となっている。基準値と比較すると熱量はほぼ十分であるが他の栄養素は依然として少なくいずれも相当量の不足が考えられる。

市部は郡部に比べ逐年改善の傾向をみせているが、郡部にあつては熱量は市部より多いが動物性蛋白質脂肪等がかなり少なく、含水炭素はむしろ多過ぎる等正すべき多くの欠陥をもっている。業態別にみると熱量、蛋白質等量的には田作世帯が多いが、動物性蛋白質、脂肪、その他の栄養素を通じて質的にバランスのとれた業態は事務的従事者世帯である。特殊農業世帯は動物性蛋白質の摂取量も比較的多く、ビタミンA、C等最も多いが、脂肪の摂取が少なく、労働的従事者世帯及びその他の世帯は事務的世帯に準じ各栄養素は比較的平均に摂取されているが量的にかなりの不足にある。

林業従事者世帯及び畑作世帯は各栄養素を通じて最下位にあり、田畑作世帯も熱量および脂肪はやや多いが他の栄養素は全般に少なくこれに準じている。

漁業者及び類似従事者世帯は動物性蛋白質の摂取量は他業態をはるかにしのいでいるが、熱量及びビタミンA、C等はずっとも不足している。

2. 食品摂取量 全般的にみて質的構成において改善をみつつあり、動物性食品が増加し植物性食品は減少している。穀類としては米の消費は増加したが、麦類殊に大麦が激減し、油脂類、豆類はともに増加したが、魚介類は僅か減少し、肉類、卵類、乳類、特に乳類は激増している。野菜類及び乾燥野菜はかなり減少しているが果実、漬物は増加している。食糧構成の比較において市部は郡部よりはるかにまさっており、郡部は摂取食品の多くを限られた自家生産物に強く依存している関係から植物性食品が多く、その上白